

飼料原料の高騰に伴う配合飼料価格の上昇に対する取組み

平成 19 年 7 月 20 日
協同組合 日本飼料工業会

1 協同組合日本飼料工業会の概要(平成 19 年 7 月現在)

組合員数 52 企業 (86 工場)

組合員の配合飼料生産数量(平成 18 年度) 15,638 千トン

2 飼料原料の高騰に伴う配合飼料価格の上昇に対する対応

配合飼料製造コストのおよび物流コストの縮減

- ア 合弁企業工場における製造特化によるコスト縮減
平成 18 年度 86 工場のうち 17 工場が合弁企業
合弁企業の配合飼料生産量におけるシェアは、20%を占める。
- イ 製造業者間の受委託の推進によるコストの縮減
メ - カ - 間の受委託による配合飼料生産数量は、総生産数量の 38%を占める。

使用原料の多様化

- ア エコフィード 配合飼料原料としての使用拡大
エコフィード使用生産者に対する家畜栄養学の技術サポート
- イ DDGS(エタノール蒸留粕) 飼料原料使用の拡大
高レベルの配合割合の開発研究
- ウ 規格外小麦 海外産地国の現状調査および検討

飼料原料調達国の多様化

- 中 国 メイズ、糟糠類、植物たん白ほか
- イ ン ド 大豆油粕
- 東 欧 脱脂粉乳、ホエイ - パウダ -

配合飼料価格安定制度の運用状況

全日基(商系基金)は、平成 18 年 10 月以降平成 19 年 3 月までの半年間に、畜産経営者に対して通常価格差補てん金約 219 億円、異常価格差補てん金約 64 億円を交付した。
今後においても、行政当局と連携を図り、配合飼料価格安定制度の適切な運営に努めたい。

3 飼料の安全性の確保

飼料安全法およびポジティブ制度を遵守した配合飼料の安定的供給

BSE に対応した牛用と鳥・豚用の配合飼料の製造ラインの分離

ISO、GMPの認証登録の推進

以 上